

議 長	副議長	局 長	次 長	議事係長	議 事 係

COOLS	
H	P

総務常任委員会 会議録			
日 時	平成 18 年 10 月 23 日 (月)	開 議	午後 1 時 0 0 分
		散 会	午後 2 時 3 8 分
場 所	第 2 委員会室		
議 題	継 続 審 査 案 件		
出席委員	大竹委員長、秋山副委員長、上野・山田・小前・菊地・横田 佐々木（勝）各委員		
説明員	教育長、総務・財政・教育各部長 ほか関係理事者		
<p>別紙のとおり、会議の概要を記録する。</p> <p>委員長</p> <p>署名員</p> <p>署名員</p> <p style="text-align: center;">書 記</p>			

～ 会議の概要 ～

委員長

ただいまより、総務常任委員会を開きます。

本日の会議録署名員に、菊地委員、横田委員を御指名いたします。

継続審査案件を一括議題といたします。

この際、理事者より報告の申出がありますので、これを許します。

「（仮称）新博物館展示・内装工事実施設計図について」

（教育）新博物館開設準備室八木主幹

（仮称）新博物館の実実施設計について報告いたします。

本実施設計は、委託発注を行い、7月12日から9月29日までの期日で行います。

本日は、お配りしてあります（仮称）新博物館展示・内装工事実施設計図抜粋により、説明いたします。

1 ページは、1 階平面図であります。表紙裏側の見開きにイメージパース 2 面を載せていますので、図面とあわせてごらんいただきます。1 階平面図の右側中央、風除室に入りがあり、ここからエントランスホールに入ります正面の手宮ホール側に、改札口を設けます。イメージパース右下にありますように、改札口からは、しづか号を望むことができ、駅の改札口とプラットホームをイメージしております。図面で、エントランスの下に位置して、レファレンスルームがあります。窓側にパソコン 5 台を置き、資料検索などができるようにするとともに、学芸員を配置し、カウンターでの受け答えができるようにしてあります。

なお、従前は外の中央ゲートで入館料をいただいておりますが、新たな博物館では、このエントランスホール、レファレンスルームまでを無料ゾーンといたします。

図面左半分の手宮ホールと第一展示室は、従来からの鉄道資料の展示を行っておりますが、これらの展示はおおむね残し、照明や解説板などのリニューアルを行います。第一展示室の左側には、多目的映像シアターを設けます。イメージパースの左上にありますように、現在の科学館とほぼ同じ大きさの直径 7 メートルのドームを設け、デジタル映像の投影機により、プラネタリウムのほか、一般映像の投影もできるようにいたします。第一展示室の右側には、新たな展示として「蒸気機関車の始まり」を設けるとともに、ビジュアルコーナーで蒸気と鉄道の科学をテーマとした映像などをごらんいただけます。

次に、2 ページは、2 階平面図であります。左下のこれまでの第二展示室を可動式の展示ケースで仕切り、科学展示室と企画展示室にいたします。科学展示室には、新たに車輪のふしぎ、鉄道の科学体験コーナー、工作実験コーナーを設けるとともに、これまで科学館で展示しておりました機器も一部リニューアルして展示いたします。特に、工作実験コーナーでは、実験ショーなどを展開し、入館者にも簡単な工作や実験に参加いただくことで、体験型の科学展示スペースといたします。企画展示室は、間仕切りになっている展示ケースの移動により、展示規模に応じてフレキシブルに活用できるようにいたします。このことで、これまで小樽での開催が困難でありました大規模な企画展が容易になります。図面右上の部分は、実験室といたします。机は固定せず、多目的に活用ができるようにしたいと考えております。

展示工事の実実施設計については、以上ですが、資料としまして、別途、（仮称）新博物館自動車展示館新築工事実施設計図抜粋をお配りしてあります。この自動車展示館は、これまで旧小樽交通記念館に収蔵並びに展示されておりました 14 台の車両を 1 か所に集約し、広く市民の皆様にごらんいただくことを目的に、工事位置図並びに配置図のとおり新築いたします。

なお、この後のスケジュールについてであります。12月の第4回定例会には、新たな博物館の条例案を上程させていただくことしておりますが、条例に盛り込むべき施設名称、入館料などにつきまして、各方面からの御意見を参考にしてまいりたいと考えております。つきましては、今後、委員の皆様にも相談させていただきますので、

よろしくお願いたします。

委員長

「小樽市室内水泳プール廃止後の対応策変更点について」

(教育)室内水泳プール館長

さきの第3回定例会の総務常任委員会においてお示した小樽市室内水泳プール廃止後の対応策のうち、当面の対策につきまして、委員各位から、さまざまな角度から御意見をいただきました。教育委員会といたしましては、それらの意見を十分に踏まえ、細部にわたり再検討を行っているところでありますが、現時点で既にお示している案と根本的に変更になった点について報告いたします。

1点目は、水深調整についてですが、当初、身体障害者や高齢者の使用に配慮するということから、高島小学校温水プールの水深130センチメートル部分を小樽市室内水泳プールと同様に120センチメートルにするために、水面全体を10センチメートル下げるサイドフロー方式を検討しておりました。しかし、一方で、小樽市指定無形文化財の向井流水法やシンクロナイズドスイミングを行う団体など、水深の深さを求める利用者もおりますことから、コスト高から一度は見合わせたプールフロアを2コース敷き詰める水深対策に変更したいと考えております。このことで、水深130センチメートルが3コース、水深120センチメートルが2コース、水深70センチメートルが1コースとなります。

2点目は、水泳教室の実施方法についてですが、当初、高島小学校温水プールでは、毎年6月から8月の間、小学校の水泳授業が行われますことから、利用時間に制限ができ、教室の通年開催が困難になるとの懸念から、小学生教室のみを外部講師で実施し、常設、水中体操、成人の3教室は民間施設との連携で開催することとしておりました。その後、利用時間制限による影響や指導内容などをさらに精査した結果、小学生教室と成人教室については、指導スタッフを含め、現行と同様の内容で高島小学校温水プールでの開催が見込まれることとなりました。

なお、常設教室と水中体操教室については、利用時間の制限の問題をクリアすることが難しいため、当初案どおり民間施設での開催といたします。

また、これらの変更に伴い、現在、高島小学校温水プールの施設管理や監視業務など民間委託については、配置する直営スタッフでの対応を検討いたします。

委員長

これより、質疑に入ります。

なお、本日の順序は、共産党、自民党、公明党、平成会、民主党・市民連合の順といたします。

共産党。

-----  
菊地委員

(仮称)新博物館について

初めに、科学館のことで何点かお聞きします。今、説明を受けましたこの科学展示室、現行の科学館で行われている展示をすべてここに持っていくのは不可能な広さではないかと思うのですが、今、子供たちに人気のあるものとか、それから学芸員の皆さんが何としても続けていきたいと思ってもやめざるを得なかったものとか、そういうものも含めてどういうふうに変っていくのか説明いただきたいと思います。

(教育)新博物館開設準備室八木主幹

現在の科学館にあります常設展示物には、簡単に移動できるものとそれから完全に壁とか天井に固定をされているものがあります。一律に見ましても、実際には簡単に新しい博物館の方に持っていけないものも数多くある中で、新しい博物館の中では、今まで科学館でやっていた展示とさらには鉄道との絡みで新しい展示も加えながら、その展示室の中に展開をしているという状況になっています。

菊地委員

7月9日に第1回の市民懇談会が開かれていますね。そのときにいろいろ要望とか出されていたと思うのですが、その後の計画の中で、この市民要望で具体的に取り入れられたものやこれまで計画になかったけれども新たに取り入れられたものとかというのは何かあるのでしょうか。

(教育)新博物館開設準備室八木主幹

1回目の懇談会のときには、ソフト的な部分でどのような事業をやるとか、入館料は幾らになるかとか、主にそういうようなことがありまして、その部分につきまして検討を重ねる中で、入れられるものにつきましては入れるという状況になっております。なお、入館料等につきましては、今検討して腹案を持っていますので、この後いろいろ相談してまいりたいと考えています。

菊地委員

具体的にはお示しできるものは何かないのですか。

(教育)新博物館開設準備室長

第1回の市民懇談会のときには、五、六十名の市民の方々がお集まりになりまして、さまざまな御意見をいただきました。まず、スタッフがどれくらい配置されて、どういう事業ができるのか、あるいは緑町の科学館が手宮に移ることによって、そのアクセス環境はどうなるのか、あるいは具体的な展示についてどうなるか、さまざまな御意見をいただきました。私どもはそういう御意見をお伺いして、その中で例えば現在の事業スタッフはそのまま移行する予定とか、あるいはそのアクセス環境についてもバス会社等にこれから具体的に要望を出していくとか、そういうようなことに具体的にお答えできる部分はありました。なお、展示の内容等につきましても、さまざまな御意見がありましたが、私どもはそれらを踏まえながら、現在の科学館機能を著しく損なうことのないように、事業配置あるいは事業展開を考えていきたいというふうにお答えしていたところです。

菊地委員

先ほど御説明いただきましたプラネタリウムの考え方も、最初の構想のときよりもかなり変わってきていると思うのですが、それもやはり運営委員とか市民の皆さんの要望とかで変わってきたと考えていいのでしょうか。

(教育)新博物館開設準備室長

当初、プラネタリウムだけということ考えたのですが、さまざまな関係各位の御意見もお伺いして、多目的に利用できる新たなプラネタリウム像みたいなものを私どもが追い求めた結果であります。

菊地委員

9月27日には第2回の市民懇談会が開かれていまして、私もその中に出席させていただいたのですが、新博物館事業について考えられるものという資料をいただきました。その資料に基づいて説明をお聞きしたのですが、学芸員の皆さんのすごい熱意を感じたのです。ただ、市民の皆さんからもこのときに意見が出されていたのですが、学芸員の皆さんの熱意は感じられるし、これをすべてされたら素晴らしいことなのだけれども、実際にこれをやっていこうとするときには、人の手だてというか、学芸員の数がもっと必要になるのではないだろうか。そういう手だてがとられなければ、中途半端に終わってしまうのではないかという質問や心配が出されていまして、私もそのとおりだというふうに感じたのです。そこで人的な措置については、この先どうしようとされているのか伺います。

(教育)新博物館開設準備室長

人的な配置にかかわる御質問ですが、今、私どもが考えていますのは、現在の博物館のスタッフ、学芸スタッフですが、科学館の運営スタッフ、それらはすべて新博物館の中で吸収しながら展開していきたいというふうに思っております。その人数にかかわる部分では、確かに多ければ多いに越したことはないといえば、そういうこともあるかもしれませんが、しかし、現在、我々がつくっているプランと申しますのは、現有勢力、つまり今申し上げまし

た博物館、科学館、その両学芸スタッフ、その人員をベースにして、どういう事業展開ができるかということ、そこからつくり上げておりますので、私どもは、この前回の市民懇談会の中でお示した事業はできるというふうに思っております。

菊地委員

でも、すごい中身です、この資料を基に説明を聞いたときに、私は科学館がそのまま残ってほしいという希望があったのです。どうして博物館なのだろうと。博物館は現行の博物館があるのだから、鉄道のさまざまなあいうものと、それから科学を育てる目をしっかりと養っていくための科学館が残ってほしいと。しかし、鉄道のあの記念館の跡に、科学館として一緒にするのは、鉄道そのものが博物的要素なので、科学館としては残れないのだというような説明も受けました。科学館の主要な役割としては、やはり子供たちに科学の目を養うということでの、ハードよりもソフトな面として出前講座とか、そういうことでしっかり人の手だてが本来必要なのではないかというふうに感じたのです。そういうことがしっかりこの中に盛り込まれていて、中身としては、事業としてはすごいと思ったのです。それにしても、例えば小樽のよろず相談室になりますというような意欲的な中身もありました。ここに来たらすべてがわかる、そういうことと、学芸員が常駐して各種質問に対応すると。こういうことをやっていたら、学芸員の皆さんが休みをとれるとか、そういう条件もないのではないかというふうな中身の濃いものだったものですから、本当に今の学芸員の皆さんでこういうことができるのだろうか。市民のためにはサービスをやってほしいけれども、そのために休みもとれないというような学芸員の皆さんに負担がかかるようでは、やはり問題だと思いつながりながら聞いていたのですけれども、今、館長のお話だと、そこをベースに考えているとおっしゃったのですけれども、本当にそうなのでしょう、大丈夫なのでしょう。改めてお聞きします。

(教育)新博物館開設準備室長

私どもは事業をプランニングする場合に、一番低いレベルでプランを立てるということは、あまりやりません。これまでみんなで頑張れるというところでのプランづくりを平生からやっております。できますかと言われると、今ここで大丈夫ですと言うのはなかなか難しいことです。しかし、我々は、一つの事業プランというのは一つの努力目標だと思っておりますので、現在、準備室兼務で学芸員全職員一丸となってプランを練っておりますので、私はこのプランがさらに発展するぐらいの力はあるというふうに思っております。

菊地委員

第2回の市民懇談会のときに、実際この事業をやりきろうとしたときには、人の手だてが必要だと。本当にそれが確保できるのかという参加された市民の方の質問に、ボランティアの方々の方もかりてというお答えをなさっていたのです。実際にボランティア構想というか、15日にはボランティアの方の説明会もされたようなのですけれども、そのときの報告をお願いします。

(教育)新博物館開設準備室八木主幹

10月15日に、ボランティアの説明会を行いました。40名から50名近くの市民の皆さんがお集まりになりまして、私どもも新しい博物館を利用者の皆さんと協働して一緒につくっていく、一緒に歩いていくということでお話をしてきました。今考えている構想といたしましては、六つの分野でボランティアのおよそのグループ分けを考えております。展示等の解説を行う解説ボランティア。車両の補修等を行う交通の関係のボランティア。今の博物館で行っているような、歴史的な部分に携わるボランティア。自然の調査など、また、観察会などを行う、自然のボランティア。科学館に関係した、例えば実験とか、プラネタリウムにかかわるようなボランティア。館内の維持補修とか、環境美化みたいな部分を行っていただくボランティアと、こういったことを説明いたしました。また、市民懇談会のときにお話したような今私どもが考えています新しい博物館としての事業についても説明いたしました。そういう事業の中に一緒に加わっていただきたいということをお話いたしました。

菊地委員

50名近いボランティアの方に参加していただいたということで、市民協力も得られて、大変いい方向だとは思いますが、博物館の今後の構想として、博物館資料の収集整理・保管をしっかりとやっていきたいというようなことがこの事業の中にあつたのですが、この博物館資料というのは現在、どういうふうに保管されているのかお尋ねします。

(教育)新博物館開設準備室長

現在の博物館の資料の保管状況ですが、現在地の中にもそういうところがありますが、それ以外に空き教室とか、あるいはほかの市の関係のあいている棟をお借りして、収蔵庫に転用しております。

菊地委員

量徳小学校の地下も博物館収蔵庫になるのですか。

(教育)新博物館開設準備室長

量徳小学校の地下については、埋蔵文化財関係の資料でして、それは今、生涯学習課の文化財担当の所管というふうになっております。

菊地委員

先ほど館長が十分やっていけるというふうにお話ししていましたが、力強いお言葉なのですが、それは今後事業が進んでいく中でまた精査していきたいと思っていますけれども、第1回の市民懇談会の中でも、じっくり市民の意見を聞いて、時間をかけて、いいものをつくりながら開館に向けていくというふうな御意見もあつたと思います。そのとき、長引くと不便をかけるというふうにお答えになっているのですが、これは具体的にどういうことなのか、中身についてお尋ねします。

(教育)新博物館開設準備室長

来年の夏に向けて準備しております。準備期間を長くすれば、それだけ得るものもあるかと思いますが、しかしながら、逆に失うものもあるかと思っています。つまり、いつの時期に、どれぐらいの期間をかけて、多くの市民の方々の御意見をお伺いしながらいいプランがつくれるかというそのボーダーの引き方に、私どもも非常に苦労していたところですが、実際には当初4月には何とかオープンできないだろうかという模索してはいたのですが、なかなか実務的にも諸般の事情もありまして、7月オープンということに内部の予定を変更した経緯もあります。つまりは、時間を長くかけて博物館機能をとめてしまう、そういうデメリットをできるだけ少なくしたいという気持ちもありまして、来年夏のオープンを目指して今頑張っているところです。

菊地委員

具体的にどんな不便がかかるのかということをお聞きしたかったのですが、今、ボランティアの方があれだけたくさん参加していただけたということでは、そういう力もおかりしながら、市民サービスを継続しながら開館に向けての準備もできるというふうに、最初からそういう計画を立てられたのではないかというふうに考えたのです。ですから、出前講座をストップせざるを得なかったという、具体的にはそういうことが市民の皆さんに対する不便だと思つたのですが、それもやりながら、今いる学芸員の皆さんがすべて準備期間にかかる、そのことでこちらのサービスができなくなるということではなくて、総合的に市民のボランティアの皆さんの力をそこにかりながらやっていくということをやつていながら、しっかり意見を聞きながら準備期間をかけられたのではないかというふうに思つたものですから、こういう質問をさせていただいたのですが、何か物をつくるときに、先に教育委員会が準備して市民の意見を聞くのではなくて、最初の取りかかるときから、しっかりそういう市民の皆さんの力をかりることがなされればよかったのかというふうに思つたのですが、その辺ではどうでしょうか。

(教育)新博物館開設準備室長

私ども、準備するチームに入っている者としては、まず意識したのは、旧交通記念館が閉館して、あの状態で 2 シーズンもいいのだろうかというのは準備チームの意識の中にもありました。あの鉄道コレクションも含めた、いわゆる小樽のまちのみならず、北海道としてのこの貴重な遺産をできるだけ早く公開するような、そういう努力はするべきというのが一つありました。それから、ボランティアのことについては、委員がおっしゃるように、50 名からの市民の方々が、何ができるかわからないけれども手伝いたいと言って集まってきてくれたという、非常に私どもにとっては強い後ろ盾を得たわけですが、新博物館開設準備室としては、そういう人方を最初から育成するというよりは、むしろその準備段階から、従前のボランティアのイメージからちょっと外れるかもしれませんが、一緒にやりましょうと、一緒に博物館を動かしていきませんかというスタンスに変えてきているのです。そんなことで、ボランティアの説明会でも申し上げさせていただいたのですが、ただお手伝いいただくというイメージから、一緒にやりましょうというイメージに今変えつつあります。ですから、そういう意味では、私どもが意識していたボランティアチームの育成というのは、やはりおおむね準備業務がある程度軌道に乗ってから動かすべきであろうという、そういう現場判断もありまして、今日こういう形に動いてきているということでもあります。

菊地委員

そうしたら、交通記念館がああいう形になったのは、博物館の学芸員のせいでも、科学館の学芸員のせいでもないわけで、市民の責任でもないわけですから、そのコレクションをあのままにしておいていいのかという思いと、それから博物館、科学館の未来がどうなるのかということは、また別な問題だというふうには思うのです。ただ、今、市民の皆さんのボランティアの力がそういうふうになっていながら、今後、博物館をしっかりとつくっていくという、それは大事な機運なので、そのことは市民の皆さんのそういう思いもしっかりいただきながら、いいものをつくってほしいというふうには思います。

室内水泳プールについて

博物館のことについては、この程度にしておきまして、プールのことについて何点かお聞きしたいと思います。先ほどの説明で、水泳教室の小学生と成人教室の直営の話、それからこれまで委託業務とされていた施設管理とか監視業務については、直営というお話だったのですが、これは今、室内水泳プールにいる指導員というか、その方たちを引き続き雇用していくという構想なのでしょうか。

(教育)室内水泳プール館長

現在、室内水泳プールで行われております各種教室につきましては、直営の嘱託職員によって指導を行っているところですが、対応策を考えるに当たり、私どもの考え方としては、現行の業務内容を含めて高島小学校温水プールの方に持っていくことができるのかどうか、そういう前提の下に検討を進めていたわけですが、当初は利用時間に制限があるということで、直営の職員で行うというのは難しいという考えもありましたが、精査をしていく中で、特に小学生教室につきましては、現行も 4 時以降の実施時間ということで行っておりますので、開催に当たっての支障がないということ、それから成人教室につきましても、これは現在 3 期に分けて行っておりまして、この部分につきましても、6 月から 8 月の利用制限のある期間を外すと、やれるのではないかとというようなことの検討の中で、同じ指導者の下で教室を開催することがベターだというように考えておりますので、講師を含めて直営の職員で実施できるものは進めていきたいというように考えております。

菊地委員

室内水泳プールを利用されている人たちが、やはり教室とかそういうものの指導は今までやっていただいた指導員の方に引き続きやっていただけるのがベストだというふうなお話も聞いていましたので、それが保証されるということは、非常にうれしいことだと思うのです。そうすると、今、高島小学校温水プールはシルバー人材センターの方たちに管理指導をお願いしていると思うのですけれども、全体の構想としてはどうなるのですか。直営でその

ままやっっていくとなると。

(教育)室内水泳プール館長

現行高島小学校温水プールでシルバー人材センターにお願いしている業務内容というのは、監視業務、管理、受付、清掃、この四つの業務で、教室の指導等は行っておりませんので、指導業務はありません。そういう中で、現行と同じような教室を持っていく、あるいは管理体制も持っていくという検討の中では、直営を行うことによって、現行の業務委託は行わないで済むのではないかというのが、現在の検討過程の結論です。

菊地委員

受付業務と清掃業務は、引き続き委託というふうにさっきおっしゃったんですね。

(教育)室内水泳プール館長

現行、受付と清掃業務もシルバー人材センターに業務委託しておりますが、その業務を含めて直営で可能かどうか、検討を行っているところです。

菊地委員

シルバー人材センターの仕事がなくなる。あちらを立てればこちらが立たずと、非常に難しいと思うのだけれども、ただ、高島小学校温水プールの今、事務員というか、委託されている職員の業務されている部屋というのが、2人か3人入ったら息が詰まりそうなくらいすごく狭いところだったのです。この後、実際あそこで何人で仕事をされることになるのかわからないのですけれども、あの執務室ではあまりにも労働条件がひどすぎると思うのですけれども、それはどうされていくのでしょうか。

(教育)室内水泳プール館長

シルバー人材センターにお願いしている業務内容に合わせて職員の配置もしているわけですが、現行でいきますと、5名が配置されるような形になっています。ただ、業務内容は、監視業務でプールサイドに監視に入るという関係もありまして、事務室部分に常駐している方というのは1名ないし2名という状況です。そういう業務形態と申しますか、そういうことからいきますと、直営で現行8名嘱託職員がおりますけれども、8名の嘱託職員が高島小学校温水プールに移ったとしても、その業務の執行状況から申しますと、事務室にいる職員というのはそんなに多くはないという状況になろうかと思えます。ただ、早番、遅番の関係が出て、人数が多くなる時間帯が生じるものですから、その部分の解消ということで、多少事務室部門の拡張なりを検討しなければならないかというようには思っております。

菊地委員

労働条件の改善をお願いしつつ、もう一つは、現在、室内水泳プールでは自主的に活動しているグループがたくさんあると思うのですけれども、そういうグループの皆さんが来年度の予定を立てられずに困っているという声が聞こえてきているのです。今の時期、ちょうど来年度の予定を立てる時期らしいのですけれども、そういう見通しについて一応説明する会とかそういうことはすべきではないかというふうに考えているのですが、その辺についてはいかがでしょうか。

(教育)室内水泳プール館長

現在、室内水泳プールを利用している団体につきましては、15団体程度ありますけれども、今年の3月、8月という各ポイントごとに、利用団体の方々には、現在進められている事業の内容等につきまして、説明は、その都度してきております。今年度中の室内水泳プールの営業と申しますか、その部分につきましては、3月末まではきちんとできますと、そういう上で今年度の事業については組み立ててくださいという説明をしております。来年度以降の部分につきましては、駅前の再開発事業自体がまだ正式に確定していない、教育委員会としても最終的な判断を下していないということもありまして、その判断が出たときには速やかにまた利用団体の方に説明しますとしておりますので、そのときが来れば早急に説明をしたいというふうに考えています。

委員長

共産党の質疑を終結し、自民党に移します。

---

小前委員

室内水泳プールについて

室内水泳プールを利用している身体障害者の方々が高島小学校温水プールに移って、高島小学校温水プールでも全道大会はできるのですか。また、料金はどうなるのですか。

(教育)室内水泳プール館長

現在、考えております対応策の中では、各種大会、特に今まで行われておりました身体障害者の大会等につきましては、実施可能というように考えています。

個人使用料については、身体障害者の方は無料ですし、大会等でお使いになるときは、専用使用料をいただくという形になっています。

小前委員

更衣室とかトイレも支障はないのですか。

(教育)室内水泳プール館長

身体障害者利用のトイレ等につきましては、現行の高島小学校にも設備されております。それから、身体障害者ということだけではなくて、利用増が見込まれることから、トイレあるいはシャワー、そういう設備の増設というのは考えなければならないと思っています。

小前委員

身体障害者の方々が機能回復にプールを使うことの意義は非常に大きいと思いますので、その点は安心いたしました。

次に、個人でプールを使われている方が民間のプールを使うと、かなり料金が上がるという不満の声があがっているのですけれども、それについては、小樽市は助成する計画はあるのですか。

(教育)室内水泳プール館長

私ども教育委員会の事務局としましても、個人使用料の取扱いにつきまして当初から奮闘しておりましたが、特に個人使用料に対する助成につきましては、現行室内水泳プールを利用されている方、あるいは民間を利用されている方の区別が非常につきづらいということもあり、個人使用料に対する助成につきましては、しないという判断をしております。

小前委員

(仮称)新博物館について

プールは終わりまして、博物館について一つお伺いいたします。

最近行われました市民懇談会では、どういう御意見が出たのですか。

(教育)新博物館開設準備室八木主幹

9月27日に、運河プラザで第2回の市民懇談会を行いました。1回目の出席者の方、天気が悪かったせいもありまして少なかったのですけれども、新しい博物館の例えば入館料とか、先ほども話題になりましたが、学芸員人員配置等、交通路線、バス路線について、それから私どもの方で事業についていろいろと説明をしたわけなのですが、それについて出席者からは、期待をする、頑張ってもらいたいというような御意見をいただいております。

---

山田委員

(仮称)新博物館自動車展示館について

(仮称)新博物館自動車展示館新築工事实施設計図抜粋、この自動車の展示部分について伺います。先ほどの説明で14台とありましたが、どういう車両が展示されるのか。

(教育)新博物館開設準備室八木主幹

先ほどの収蔵されているもの、また展示しているものということで説明申し上げましたけれども、これまで展示していたものにつきましては、水素自動車マツダHR-X、ニッサン・プリンス・スカイライン2000GT-A、ヒルマン・ミンクス・スーパーデラックスPH50、ダットサン・ブルーバード1200デラックス、スバル360K111、蒸気自動車ロコモビル・スタンダード、マツダ号BC型、それとマツダ787B・55号車、以上が展示のものであります。そのほかに収蔵されていますのは、トヨタ・カローラ・デラックス1100KE10型、ホンダN360。ソーラーカー、ニッサン・ダットサン・サニー、マツダT2000とボンネットバス、JRバスは現在のイベントプラザの方に展示しております。

山田委員

それでは、今回その3棟を建てるに当たりまして、予算の概要を説明していただければと思います。

(教育)新博物館開設準備室八木主幹

予算につきましては、第3回定例会で、今回の中央展示館の展示内装工事1億2,600万円のほかに2,780万円の補正予算をいただきまして、3棟の新築工事ということで提示しています。これにつきましては、もう入札が終わりまして、まもなく工事という段階です。

山田委員

今、一応14台ということで、その後増車とか、寄付とか、そういうことは別に考えてはいないということですね。

(教育)新博物館開設準備室八木主幹

現在収蔵しておりますものの展示について考えておりまして、寄付その他については現在のところは考えていません。

山田委員

せっかくこのように良い形で展示されるということを聞いておりますので、私も少し車の方をかじっておりますが、実物もいいのですが、やはりそれについてある程度附属する説明書なり、これでいくと展示内装工事がありませんけれども、そういった創意工夫をして、どうしてこういう車を展示されたのかということの説明書きなり、そういうのも必要と思いますが、その点についてどうですか。

(教育)新博物館開設準備室長

自動車展示館、従前、旧交通記念館の2階にそれぞれ資料解説も交えた中で展示展開させていただいております。今回、自動車館として検討するに当たりましては、ほぼ同様な形で故事由来もあるものはしますし、あるいはここがこういう点でユニークなのだということもわかりやすく表現させていただきたいというふうに思っております。

山田委員

私もそういうモータリゼーションの中で育った世代です。私もセリカとか、スカイラインGTとか、ブルーバードとか、そういうようなカタログ集めを中学校時代にした覚えもあります。学童たちに夢を与えるような、そういうような形で展示を進めていただければと思います。

(仮称)新博物館について

次に、(仮称)新博物館意向調査報告「集計結果報告」からお聞きします。この中で、準備室の方では7「今後の対応」ということで、これはホームページでも載っていますけれども、早期の具体的な事業内容、これの情報公

開、「新たな博物館創りが必要である」ということで結んでいると思うのですが、この「新たな博物館創り」を説明していただければと思います。

(教育)新博物館開設準備室長

全体で、親子で参加できる講座が60パーセントと最も多いという部分だと思います。子どもはそれを準備室段階でその全体事業、いろいろ考えているところですが、現在親子で参加できる事業に主体を置いております。しかしながら、一般客と申しますか、観光でおいでになった方も十分楽しんでいただけるような事業内容、それも並行して考えております。

山田委員

地元の親子連れ、子供たちの学習意欲を高めるために新たなコンセプトで行うということ聞いております。

旭山動物園がこれから約3週間休みに入って、冬に向けて新しくまた取組が始まるということで、昨日に行ってきましたが、やはりそういった意味で時期的なそういうような企画、そういうものも今回もこの結果報告書の中にはされるようなことも書いております。催事的な、時期的なものを大規模にやる、中規模にやる、小規模にやるものがありましたら、聞かせていただければと思います。

(教育)新博物館開設準備室長

全体事業にかかわる御質問だと思いますが、子どもが念頭に置いているのは、まずは市民の方々がいつでも集っていただけるような、そういう博物館にしたい、そういう事業展開を図りたいというものを基本に据えております。そして、そのためには、鉄道発祥の地ということもありますので、そういった手宮という地域性を何とかもっとクローズアップできるようなそういう事業展開も考えております。季節的な事業も、夏には夏の事業ということ、当然考えますが、そういうイベント的なものをむしろ手宮の人方に参加しやすいような、小樽の人方に参加しやすいような、そういうイベントを今計画中です。冬にどうでしょうか、夏にどうでしょうか、いろいろ今内部で学芸のスタッフがもんでおりますので、具体的な事業実施プランというのを固まり次第示させていただければと思います。

山田委員

そういうようないろいろな考えをされていると思うのですが、今回のこういうような調査したような、そういうものはされるような予定はありますか。

(教育)新博物館開設準備室長

もちろん意向調査自身が我々のヒントを導き出してくれる、そういうものを期待しての調査ですので、この意向調査の結果というのを十分踏まえた上で、多くの人方に親しまれる館運営を目指したいというふうに思っております。

山田委員

本当にそういった形が望まれるところです。できれば私も車好きな方なので、今、休館中だとは思いますが、料金を払ってでも現存する14台を見たいと思いますので、ぜひそういう機会をよろしくお願いします。

横田委員

青少年科学技術館アマチュア無線クラブについて

第2回定例会の予算特別委員会で質問しましたが、アマチュア無線のJ A 8 Y A A局が入っていますが、これが新しいところに行けるのかと、そのときのお答えでは、ロケーションあるいは電波の状況などを調査して検討することですが、その状況についてお知らせください。

(教育)新博物館開設準備室八木主幹

現在科学館にありますアマチュア無線クラブJ A 8 Y A Aですが、遮断局としましては、全道で1番目のコード

を有する歴史的なクラブであります。構成員もそうですけれども、私どもも何とか残していきたいという方向でいろいろと調べてまいりました。とりえず電波の環境という意味で、特に大きな問題はなかったということが、いろいろ調べてわかってまいりました。先ほどから、ボランティアとかそういった話をしていますように、やはり今もいろいろなサークル活動が行われておりますが、その一つとしてこのアマチュア無線クラブにつきましても、現在よりもさらに自主的な活動を進めていただきたいというふうに考えております。ただ、残念ながら、まだ実は新博物館の中のどの場所にそういった無線機を置く場所がつかれるのかというあたりは、内部でいろいろと調べております。現実的にはコーナーとかブースとか、そういったようなスペースになるかとは思うのですけれども、いろいろな形で無線について又は電波についてレクチャーをすとか、入館者の方にお知らせできるようなそんなことをそのクラブの皆さんにやっていただけるようなそんな活動をしていきたいと、そんなふうに進めたいというふうに考えております。

横田委員

ぜひ検討していただいて、いろいろ子供たちのために御支援いただきたいと思います。

室内水泳プールについて

もう一点、先ほどプールのお話がありました。水深の関係は水位を下げる内容で、簡単に言えば下に台を入れるということですが、費用は高くなるということでしたが、これはどのくらい高くなるのか、それと可動でいいのですか、それとも一回据えつけるともう動かせない、130センチメートル、120センチメートル、70センチメートルということでありましたけれども、これについてはいかがですか。

(教育)室内水泳プール館長

コストの部分ですけれども、従前考えておりましたサイドフロー方式で約300万円弱の費用がかかるというように見積もっておりました。現在、変更しましたプールフロア方式、2コースに10センチメートルのフロアを敷き詰めるといった形なのですが、これの経費が約500万円程度というように聞いております。

それと、敷き詰めた場合ですけれども、一応脱着というのか、入れたり出したりは可能な状態になっていますけれども、私どもの今の考え方としては、通常は2コースは敷きっ放し、それで大会等で全面5コース分をすべて水深を深くしたいというような御希望があれば、その都度、プールフロアを上げるという作業を考えています。ですから、日々入れ替えるとか、そういう作業は現在のところ考えておりません。

なお、大会等につきましては、年間四、五回程度という回数ですので、その程度かというふうに思っております。

横田委員

大会ができるかと思っていたわけですが、あれは全部道の公認ではないのか、普通の競泳ではどうですか。

(教育)室内水泳プール館長

高島小学校温水プールは、25メートルありますが、水泳連盟の公認はとっておりません。

横田委員

わかりました。市民大会とか、そのレベルは大丈夫なのでしょうが。

(教育)室内水泳プール館長

現在、北海道水泳連盟の公認大会を室内水泳プールで一つだけ行ってありますが、そのほかの4大会は公認をとっていない記録会というような形の大会ですので、そういう部分については可能だというふうに考えております。

委員長

自民党の質疑を終結し、公明党に移します。

秋山委員

室内水泳プールについて

室内水泳プール閉鎖後の対応策について、変更点の説明をいただきました。先ほどの菊地委員のやりとりを聞いておりました、雇用問題が関係していたのだと改めて感じたのですが、その部分はわかりましたが、この水中体操、常設教室の業務委託の部分で、受入れ施設の方はどうなっているのか、その現状を聞かせてください。

(教育)室内水泳プール館長

民間施設との話し合いですが、市内には民間施設が四つありますが、特にそのうちの1社とその受入れについて現在話を進めているという状態です。

秋山委員

それは、先の見える話で進んでいるのでしょうか。

(教育)室内水泳プール館長

まだ具体的に突っ込んだ話はしていませんけれども、水中体操、あるいは常設コースのような教室をやるとした場合に、受入れが可能かどうかという確認はとれていますが、最終的な内容等についての詰めというのは、まだこれからのことというように考えています。

秋山委員

であれば、1回目の説明のときの民間施設を利用する場合は、教室参加者の費用負担は現状を維持することという部分には、まだ全然進んでいないということですか。

(教育)室内水泳プール館長

私どもは、利用者の費用負担については、現状維持というのは、現行入場料だけは利用者の方からいただいていると。その部分は現状維持と。それ以上に費用がかかるようであれば、それは市の方で助成するという考え方であります。

秋山委員

先ほど菊地委員の方に、利用団体には説明してきたのだけれども、そのときが来れば説明するという形で終わっていましたが、その部分が固まらなければ、その説明はまだ利用者にはできないととらえてよろしいでしょうか。

(教育)室内水泳プール館長

はい、サークル利用者あるいは個人利用者を含めまして、最終的に駅前の再開発事業が確定しないと、対応策をお示しするという段階になりませんと、お示しできないように考えております。

秋山委員

先ほどの説明の中で、現在の嘱託職員がそのまま雇用されるというお話を、きっと雇用されているメンバーは大変喜んで聞かれるのではないかと思いますので、一日も早くその日が来ることを祈っております。

小学校の通学路について

あと1点だけお聞かせ願いたいのですが、小学校の通学路のことなのですが、教育委員会として基本的な小樽市の小学校の通学路についての考え方というのはあるのですか。

教育部川原次長

学校の通学路ですけれども、子供の通学の安全を図るということで、一つはハード面といいますか、学校から毎年予算要望なり、そういった形で来ていた部分については、調査して、改修できるものはしていくという部分があります。それと、ソフト面といいますか、やはり非常に大事なことでありますので、現在、校長OBの方にふれあいサポートという呼称で通学の安全とか、それから保護者の方にも子供の安全について、立って声をかけていただくとか、そういったことは行っておりまして、今後そういった面をさらに充実するという方向では考えております。

秋山委員

今日の議題からそれで申しわけありませんが、実は御存じかと思えますけれども、放課後にある学校で子供の自動車事故があった際に、一回通学路の点検を試みようということで、校長に声をかけて、歩きました。そのとき、校長に通学路の位置づけというものを聞きましたら、歩道があるところを通学路としていますと言うものですから、そうかと思いながら一緒に歩きましたが、やはり子供の通るすべての道路に歩道が設置されているというのはかなり難しい面がありまして、その現実の厳しさを校長も感じられたかと思うのです。そういう部分で、確かに小樽市を見たとき、すべて歩道がついているわけでもない、そういう観点から見たとき、教育委員会としてそういう部分なんかを決められて指導されているのかと思ったものですから、お聞きした次第です。

教育長

教育委員会で一定の方向を指示するよりも、学校でそれぞれ事故に遭わないように、最良の道を選んでほしいということで実はお願いしているところでして、もうなくなりましたが堺小学校あたりの道路を見ますと、歩道のところが小路でして、人道はほとんどないような状況ですけれども、それであっても一番交通量が少なく、そして何かあったときに近所の人が出てもらえるような、そういう工夫をしていますし、中心部になりますと、ほとんどが歩道がついていますので、歩道を最優先ということで考えているので、それぞれの学校にお願いして一番いい方法でということが、教育委員会の見解です。

秋山委員

本当に一部分だったのだけれども、一緒に歩かせてもらって、現実が厳しいというのを改めて感じまして、警察の方でも何か教育委員会の方に確認したかと思うのですけれども、それぞれの学校に任せてあるという部分、そういう観点から見たときに、やはり学校ごとに母親の目、教師の目、どちらの目かわからないけれども、低学年についてはやはりチェックというものも必要だということをお聞きしたかったので、今後の問題として考えていただければと思いました。

委員長

公明党の質疑を終結し、平成会に移します。

上野委員

(仮称)新博物館について

(仮称)新博物館展示・内装工事実施設計図、また自動車展示館新築工事実施設計図を今日示していただきました。これにつきましては、もう9月の第3回定例会で予算も通っていますので、ないお金の中から小樽市が行う事業ですので、無駄のないようにいいものをつくっていただきたいと思っておりますので、それをまずお願いいたします。

新博物館基本計画の6ページに、今後の展開の方針、教育の場としての博物館、調査・研究の場としての博物館、社会教育施設の核としての博物館等々とありますけれども、社会教育施設になったということは、やはりこのことが一番大事でないかというふうに思います。

それにつきまして、博物館の実施計画の中に、先ほどお示しいただきまして私も見たのですが、例えば子供たちが授業でここに来て勉強をするといっても、もちろん取り入れていかなければならないと思うのです。館内授業をするか、何かわかりませんが、多数の人が来た場合に、これを見るとやはり休憩する場所といっても、何か薄いのでないのか、休憩場所がないのでないかというような、館内のどこで子供たちが休憩するのかと。例えば、これはわかりませんが、お昼にお弁当を持って、ここに来て2時間、3時間の勉強をしたいという場合に、休憩して子供たちが簡単に食事をとるか、親子で来て食事をとる、そういう場所がこの中には見当たらないのです。野外も含めて、あれだけの広大な敷地がありますので、そういう計画があるのか。また例えば売店なんか、それからミュージアムショップがそうなのかわかりませんが、この計画では入館者は短時間で帰る

てしまった、休憩室もないからすぐ見て帰ってしまうのではないかというような施設になりかねないような気がするのですけれども、それについて何か計画がありますか。

(教育)新博物館開設準備室長

休憩室の部分の御質問でございますが、まず現在の私ども準備室が入っている旧交通記念館の中央展示館と称した部分、その部分の2階に研究室というのがございます。テーブル席で60席、そこの部分を使ってもらおうということは考えております。さらに、野外の展示車両の中で、休憩室に使える座席車両を現在2車両確保してございます。さらには、年配の方々がおいでになった場合の対応として、フロア敷きの休憩車両も1車両用意してございます。そういった意味で、雨天の場合も十分子供たちの休憩場所としては対応できるものというふうに思っております。

上野委員

それだけあれば、どうかそういう場所も確保されると思うので、わかりました。

もう一点ですけれども、自動車展示館の計画が新しく出まして、先ほど山田委員の方からもいろいろ質問がありました。これは、自動車をただ見るだけですか。ただ、表から見るだけのものか、乗ったり、例えば敷地内ですの、少しの距離を、古い車に我々もはっきり言ったら乗りたいです。乗りたいという気持ちはあると思うのです。そういうことも可能なものか、不可能は不可能でいいですけれども、敷地内ですので、ナンバーを取らなくても運行はできると思うのですけれども、10メートルでも乗りたいという、展示車種を聞くだけで中に入りたいと思うのは、やはり感覚的に座席に座ってみたいとか、ハンドルを握ってみたいとかという気持ちがあると思うのです。特に、今はないような車です。そういうのがどうかという気がするのですが。

(教育)新博物館開設準備室八木主幹

これまで展示してありました自動車両等ですが、現状で走らせるということはちょっとなかなか難しいと思いますが、乗っていただくとかという部分でありますと、これまでF1レースの車両なんかでも子供に乗っていただくというようなこともしていましたので、そういうことについては今後検討していきたいと、そんなふうに思います。

上野委員

この施設は、たしか通年で営業するのですよね、1年間、休まないで。そういう希望ですね。冬の時期にどのような対策をとっているのか。冬はいろいろ難しいと思うのです。やはり人を呼び込む場合。これは夏と違って、その辺から大体小樽の施設は失敗していきますので、どこも通年で初めやろうとしたのが、冬に入館者が来ないから閉めてしまうとか、その閉める影響でそこがだめになると。今回のこの交通記念館なんかもそういう要素があって、入館者が少なくなったと。冬のいろいろな対策とか魅力づくりは、何か考えていますか。冬というのは、すぐ来ますから。

(教育)新博物館開設準備室長

言うなれば、冬対策ですが、今、私ども、この準備室スタッフも冬の経験、今回初めてなのです。さまざまな実験をしようということで、今、スタッフと話し合っているところです。例えば手宮口を冬あけて、どこを通路として確保するのか、手宮ホームがいいのか、あるいは手宮ホームから外した方がいいのか、そういうことも含めて現在検討中です。実際のところ、私たちは冬の北海道は売れるだろうとは思っているのです。特に観光でおいでになった方々は、あえて手宮口から入っていただいて、歩いて現在の展示館まで来てもらうという体験をしてみようということも、アイデアの一つとしてもう押さえております。ただ、私たちも通常の越冬対策とはちょっと質が違うかもしれませんが、むしろ冬を楽しむという方向性で今プランを練っていることだけ、この場で申し上げさせていただきたいと思います。

上野委員

そういう考えがもう新博物館開設準備室長の頭の中にあるというのは、私は大変頼もしいと思っています。どうぞ来年オープンですけれども、今年の冬、やはり実験できるものを何か、やはり小樽は、今、冬で売っていますの

で、ぜひ来年と言わず、今年、準備期間に何をやれば売れるのか、きっといいものが、冬のイメージを変えて、夏のイメージと違うやはり新博物館で、わあ、小樽の新博物館に行ったら冬がすごいなというような意識を与えることが、特にこの冬を克服する、場所的にも決して悪いところではありませんので、どうぞ来年オープンと言わないで、もう今年から冬だけは仮称でもオープンさせて、冬の企画を、いや、笑わないで、やはりそういうことが通年の要素につながっていきますので、今年はこれだけのものをきちんとつくっていくと、夏の対策は意外にイベント等もやりやすいので、いろいろなことを企画できるのですけれども、冬のことも本当に一生懸命考えてとっていますので、期待していますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員長

平成会の質疑を終結し、民主党・市民連合に移します。

-----  
佐々木（勝）委員

室内水泳プールについて

先ほどプールの変更になったところで、小学生教室、成人教室が現行同様でと、そして常設と水中体操においては当初どおり民間でと、こういうふうには私は聞き取ったのですけれども、こう変更せざるを得なかった理由は何ですか。

（教育）室内水泳プール館長

変更した理由ですけれども、小学生教室につきましては、4時以降の実施で行っておりますので、特に高島小学校温水プールの開放時間の利用制限には該当しないので、この部分については高島小学校温水プールでもできるのではないかと。ただし、前回までは、民間の講師をお招きしてやってもらうというような考えでございました。成人教室につきましては、10時半から12時半の開催で行っておりますので、6月から8月の間、高島小学校温水プールの場合には使えないということもありまして、民間にお願いしようかと思っておりましたけれども、現行も3期に分けて実施しているということがありまして、実施期間を短縮すれば、6月から8月を外した期間であっても、そういう時間帯で、現行どおりの時間帯で開催が可能かということもありまして、現行のスタッフで行えるのではないかとということで、この二つについては現行のスタッフで高島小学校温水プールで行うと。残りの二つにつきましては、これは通年で、年間を通して回数的には60回から70回ぐらい開催しているのですけれども、6月から8月の間、3か月間、その教室を中断しなければならないということになってしまうものですから、それであると教室としての、受講者としての効果が見えてこないということで難しいということで、通年が開催可能な民間の方でお願いしたいと、こういう判断をしているところであります。

佐々木（勝）委員

机上プランということでもいいのかな。それと、関係方面に十分レクチャーをしたり、これからするのか、そういうあたりはどういうふうになっていますか。

（教育）室内水泳プール館長

施設の利用につきましては、私ども教育委員会所管あるいは学校所管ということで、利用の部分についての判断というのは、こちらサイドでできると思いますが、先ほども話しましたが、民間にお願いする教室につきましては、これから内容等の詰めがありますので、この部分はまだこれからというように考えております。

佐々木（勝）委員

そういう面で考えれば、十分理解してもらえるとということなのか、難しい面があるのか、あるとすればどんな難しい面がありますか。

（教育）室内水泳プール館長

事前の民間施設との話し合いの中では、私どもとしては受けていただけるという感触があります。ただ、先ほども

言いましたように、委託料の関係がありますので、委託料がどのくらいになるかの詰め等は今後の課題というようには考えております。

佐々木（勝）委員

水深調整の関係は先ほど横田委員の方から話がありましたけれども、トータルすれば500万円近く費用をかけますね。

（教育）室内水泳プール館長

プールのフロアの事業につきましては、プールのフロアを敷き詰めることによって、500万円程度の予算が必要というように考えております。

佐々木（勝）委員

それで、新しい施設の問題等もありますけれども、今の位置づけ、これから高島小学校温水プールを利用する、これは現在駅前にある室内水泳プールところの代替施設というふうに押さえていいのか、暫定的な対策というのか、当面の対策というふうな施設で押さえるのか、その辺のところは。

（教育）室内水泳プール館長

私どもとしましては、暫定的な対応というように考えております。

佐々木（勝）委員

わかりました。そうすると、利用していきながら、利用者の声とか、そういう対応の問題というのは順次いろいろと変化していく可能性というはあるのでしょうか。

（教育）室内水泳プール館長

現行もそうですけれども、利用者の御意見というのはその都度お聞きして、改善すべきところは改善していくという考え方ですので、今後につきましても、その利用に当たった改善点等が出たときには、可能な限り対応していきたいというようには考えております。

佐々木（勝）委員

（仮称）新博物館について

それから、博物館の関係。まず、先ほど説明をしていた中で、この2階の部分で、企画展示室に触れて報告がありました。従来から困難とされていた大規模な企画というか、こういうことが今回これによって可能だというふうな説明があったのですけれども、どういう内容を指しているのか。これまでの中ではできなかったというその現状認識ということ、これからここを利用することに、可動式という名前で、これは移動できるうんぬんと、ただそういうことなのか。それで、これまでに企画してきたけれども困難とされた企画は、どういうことを指しているのか。今後、それによって大規模な企画が可能となるという説明があったので、そのイメージの方は、私はわからないので説明してください。

（教育）新博物館開設準備室長

主幹の方から前段で説明させていただきましたが、2階の企画展示室そのもののフレキシブルな活用、先にそれを説明させていただきたいと思います。科学展示室を設けますが、科学展示室の展示物そのものをすべて可動式にいたします。可動式にいたしまして、企画展のその規模内容に応じて、その科学展示室を小さくする、場合によっては、その大規模企画展が来た場合には、科学展示室が休室するということも極端な場合あり得るかと思えます。つまりは、今まで博物館で展示会を数々やらせていただきましたが、博物館の展示室の場合、最大で面積取りしてもせいぜい200平方メートルまでだったのです。今回は、トータル面積で370平方メートル、おおむね倍近くになります。そのうちの科学展示室部分をとっても、少なくとも1.5倍以上の面積は確保できるようになる。そうすることによって、例えば文化庁が実施している全国巡回展、そういうものを持ってくることは可能になります。つまりそれは、最低これだけの面積を要するという、そういう条件があります。それをクリアしなければ、いくら私どもが

希望を上げて、巡回展を持っていくことができません。今回の場合は、おおむねその平均値をクリアしていますので、巡回展を持っていくことは可能ですし、あるいは国宝とか重要文化財とか、なかなか小樽市民の方々が目にする機会の少ないコレクションも、今の新たな館のコレクション管理の環境からいくと、そんな色がありませんので、そういうものも持込みが可能になります。

佐々木（勝）委員

先ほど教育的施設ということで、基本的にはそうなのだけということだけれども、費用対効果の関係で、集客をある程度見込んでいるということも話の中に出てくるし、しかしこの館は市民が集う場所なのだと、こういうことも言うし、今言う新しい博物館、名称はまだついていないけれども、一体どういうキャッチフレーズで描いているのか。そしてもう一つは、先ほども話が出たけれども、動態展示というものもあるのか。時によってはとか、そういうようなこともあるし、見て触れて楽しんでというこういう部分がメインになるのだけれども、どういうキャッチフレーズでいくのか。

（教育）新博物館開設準備室長

従前の基本計画の中で示させていただいたのですが、私どもの新博物館のコンセプトとして持っているのは、北海道の鉄道の発祥の地としてふさわしい、そこにある博物館としてふさわしい博物館にする、それが一つあります。それに、歴史的なあるいは科学的な要素を付加していくのだと。そして、さらには大規模な企画展を誘致できるような、そういうベースにするのだと、これを基本的なコンセプトとして持っております。私どもはそれをベースにいたしまして、まずは市民の方々に、先ほども申し述べさせていただきましたけれども、集っていただくような、そういう博物館にしたい。つまりは、いい博物館、楽しい博物館は観光施設にもなり得るのだと思うのです。そういうコンセプトを持っております。そういうことで、まずは一義的には多くの市民の方々に使っていただいて、満足していただきたい、それがあります。それからもう一つ、動態展示に関してですが、今、動態展示としましては、やはり代表されるのは蒸気機関車アイアンホース号だと思います。

蒸気機関車を交通記念館時代にも動かしております。それは、ぜひ我々も踏襲したいというふうに思っております。模型等で見る蒸気機関車と実際に蒸気の吹き出す音を聞きながらオリジナルを見てもらう、そのところは私たちの博物館の売りにしたいというふうに思っております。

佐々木（勝）委員

このところはこれだけを見ると、これまでの交通記念館のリニューアルというふうなイメージがわいてくるのですけれども、そういうイメージで考えていけば、つまり行ってみようということ、見て楽しんでというようなネーミングというのかな、第4回定例会の中で、ある程度館名とか、それから内容等も出てくるというのですけれども、どういうイメージをわかってリニューアルするのか、ネーミングに関係してくるけれども、公募という形でしているのだろうかというのはどうか。

（教育）新博物館開設準備室長

現在、条例の中に入たい込まれる施設名称については、公募ということは現在のところ考えておりません。

ただ、どういう名称にするか、先ほども八木主幹の方から述べさせていただきましたが、議員各位の御意見もお伺いしながら、じっくり煮詰めていきたいというふうに思っております。これからのスケジュールということで、話させていただいておりましたけれども、多くの方々の御意見を参考にしながら、オフィシャルネーム、条例に明記されるべく施設名称は触れていきたいというふうに考えております。

佐々木（勝）委員

公募はないというのだね、わからないけれども。

いつも財政上の問題になりますけれども、これから先はあれもこれもできないと。あれかこれかということに絞らざるを得ないという財政の基本的なコンセプトというのだね。そういう点から考えて、財政部に質問するのです

けれども、今回立ち上がろうとしている新博物館、私の気持ちとしてみれば、現在、過去、未来という、そのいわゆるつながりというものを発展的に考えているのだというふうには思うのですが、その辺で考えていった場合に、今の財政事情から考えながら、費用対効果ということも考えて、小樽の目玉になり得る施設というふうには押さえているのか、その辺のところはどうですか。

財政部長

専門のノウハウを持った職員が、鉄道あるいは青少年科学館、それからその他の博物館、そういったものの知識の集積をこの 1 か所に集約して、それでいわゆる新たな形でもって来年の夏にオープンするということから、当然これはもう小樽の誇れる新たな形の博物館というか、そういうものだというふうに期待しておりますので、今回は予算もつけて、館内の展示内装等をきちんと整備して、それからまた今後出てくる問題ですが、その部分に向けてさらに外回りの関係をきちんと整備して、そして内外に誇れるようなものを、お客様をお迎えできるようなものとなるよう我々サイドも期待しております。

委員長

民主党・市民連合の質疑を終結いたします。

以上をもって質疑を終結し、本日はこれをもって散会いたします。